

暑さも増してきた七月下旬のある日のこと、夏休みに入ったので、私は日の暮れた頃に父の運転する車で自宅マンションに帰宅しました。駐車場でふと父が言いました。

「うちのマンションのゴミ捨て置き場は、いつも打越さん達（管理人さんの名前です）がきれいに掃除と整頓をしてくれているけど、夜になるとゴキブリが出るだろ。暑くなっても最近ゴキブリの数が増えたぞ。昼間の打越さん達が気づかないのは夜行性だからだ。パパは男だし平気だけど、ゴキブリの姿を見ただけで会いたくないのに会っちゃったって思うママみたいな住人達がほとんどだろうから、怖がって駆除できないだろう。」

よし 百花、パパと二人でゴキブリ退治をしとくか。」

「え〜」と私は最初腰砕けな反応をしましたが、片付けたら掃除をするのは好きだし、夏の夜の林に入っていたカブトムシ採集のわくわくした記憶とも重なり、いつも夏休みに体験をさせてくれる父に、結局賛成をしました。

いったん自宅に戻って、スプレーを探しながら母に説明すると、母は案の定、「え〜」とおののいていて、

「ゴキブリは飛来して攻撃してくるから、気をつけてね。」と私に言いました。

私は、虫除けを肌にしつかりスプレーして、靴元を固め、父とゴミ捨て小屋に向かいました。ゴキブリフマキラーWジェットくぎづけノックダウンを握りしめていたのは、いうまでもありません。

インターネットでゴキブリについて調べてみました。和名の由来は、御器をかじる、転じてごきぶり。英語名ではご存じコッククローチです。その特徴や習性をまとめてみます。

約三億年前に出現した生命力の強い生きた化石。暗くて暖かく狭い場所に潜む。食物をかじって食べる雑食性で、人間の垢や毛髪、和紙や油まで食べる（ギョエー）。成虫は黒色や茶色で上から押しつぶされたように扁平な体型で油光りしている（またまたギョエー）。突然の出没で人を恐れさせ、不潔さによる不快感を人に強く与える不快害虫。発達した脚で壁に沿ってすばやく走り、病原菌を運搬する。

食物の近くにいたらもう最悪です。今もなお、ゴキブリの数は増え続けていて、世界で最もゴキブリが多い国は日本だそうです。日本でもゴキブリは嫌われていますが、特にアメリカ合衆国では日本以上に忌み嫌われていて、しぶとさの象徴、根絶困難な悪役キャラとして知られています。また、集団で群居し夜行性で、核戦争後に生き残れる耐久力を持った地球唯一の生き物と言われています。

私の住んでいるマンションで、気づいた誰かが勇気さえ出して退治駆除をしておけば、住民みんなの為になります。

夜九時になり、ゴミ捨て小屋のドアの前についた父と私は、準備を整え、重い金属ドアを、静かに、手前に引いて開けました。

ドアの右側にある電灯スイッチを入れました。

奥の方に目を凝らすと、居ます、居ます、ゴキブリ達が。床に二匹、奥の壁にも二匹、足音静かに忍び寄って観察すると、ウニウニと触角を動かし、私を警戒し今にも走り出そうとしています。

私は、ゴキブリフマキラーWジェットくぎづけノックダウンを両手で構えて床の一匹に狙いを澄まし、ボタンを押しました。「シューコーッ」霧がゴキブリの背中に命中していますが、さすがはゴキブリです。すぐに効いている感じはありません。コソコソした早さで壁際の空ビン・空カン分別収集箱のほうへ走ろうとしました。でもだんだん動きが鈍くなり、ひっくり返って、天井に何本かの黒い脚を向け、グニグニさせました。効果があったようです。

私は調子が出てきて、ほかの三匹、いずれも五、六センチくらい

のクロゴキブリを追い回し、同じようにやつつけて行きました。蟻くらい長さ一センチ弱の小ゴキブリも見つけ、同じように駆除をしていきました。

「まことかどうか、一匹ゴキブリを見つけたら実際は十匹潜んでいるって言うからなあ。この収集箱の下にまだ何匹か潜んでいるかもしれないぞ、よし百花、パパが箱を手前に引くからやつつけない」父が、八つある箱を順に手前に引くと、わあ居ます居ます、それぞれ箱の下に平均一匹くらいずつクロゴキブリが潜んでいて、ウネウネと触覚を動かしています。

駆除に慣れてきた私は、シューシユコ、父と順に片付けていくと、ある者はゴミ捨て小屋から這い出ていき、ある者はひっくりかえって駆除されていきました。ホウキで掃除をして最後に数えたら、結局クロゴキブリだけで十三匹を駆除していました。

その夜はなんだかスッキリした気分になっていると、父がいいました。

「我々ヒトの親子がゴキブリを不快害虫と判断して、たったいま駆除をした。まずこれが自然界の弱肉強食の原理ってやつだ。」

「いずれ社会に出ればわかってくるが、会社や組織、一般人の中にも人を騙したりするゴキブリみたいなのがいる。オレオレ詐欺なんか分かりやすいね。でもね百花、大事なことは、言い換えるとどんな生き物も本能で命を繋ごうとするから、相手はその瞬間を自分でできる技で懸命に生きようとしていると言うことなんだ。そのことを知って決して相手をあなどってはいけない。油断せずに相手を感じ取っていきなさい。」

生き物はみな役割を与えられて生まれてくる。その大勢の人のつながりが現実の人間社会なんだ。

そういえば前に家族で、WALLIE（映画のウォーリー）を繰り返し見たね。人間が諦めて住まなくなったゴミだらけの地球が舞台だったけど、生き残った一匹のゴキブリだけが、ウォーリーの唯一の

友達だったね。

生き物が命を繋げる、それだけでも価値あることなんだ。

そう思えば大概のことはまあ笑って過ごせる存在に思えてくるものなんだ。ノブレスオブリージユには、そういう側面もあるのさ。」

と、笑ってそういいました。

そういう意味では今夜のゴキブリ達は、少々油断気味であったといえます。